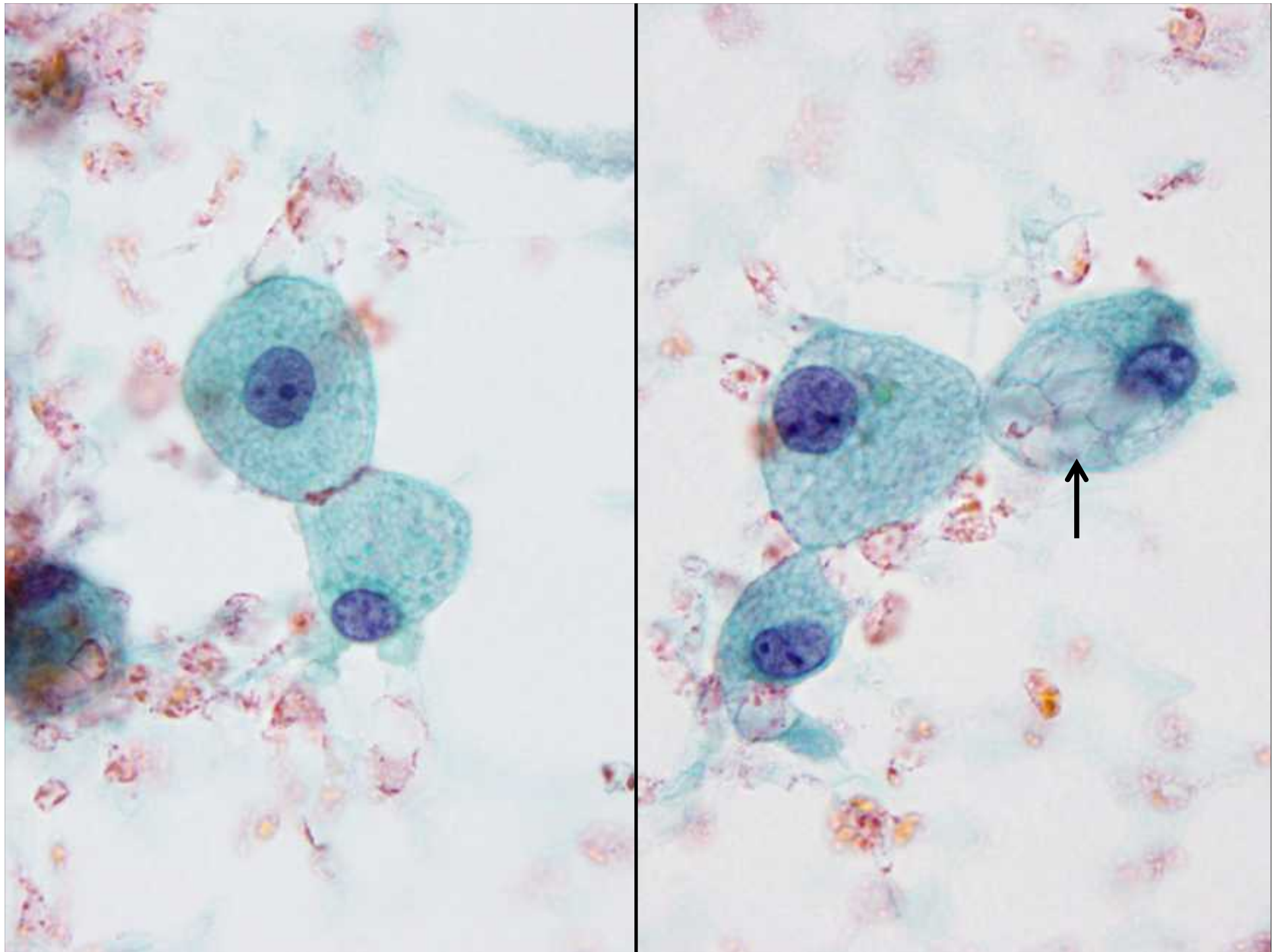
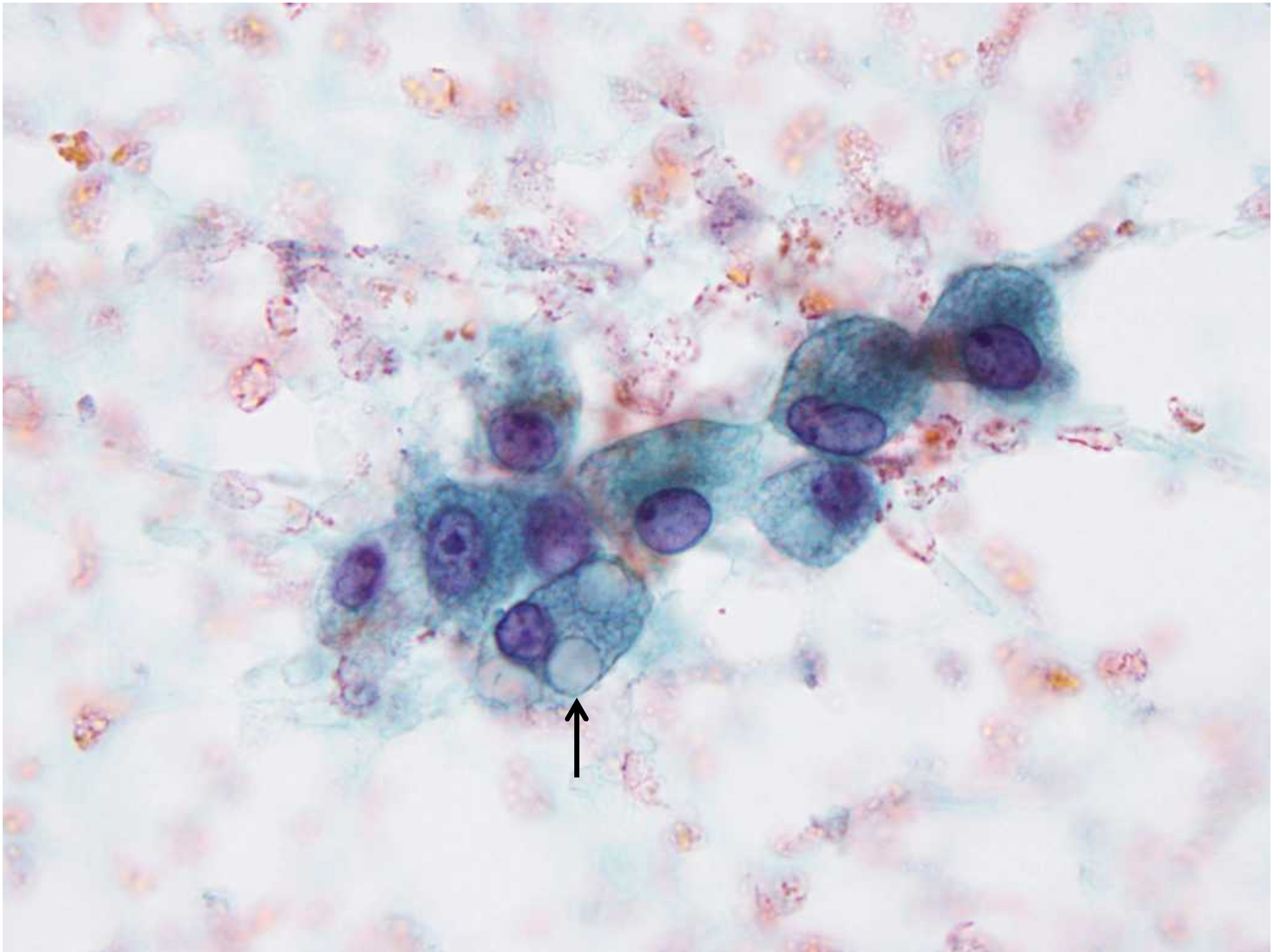


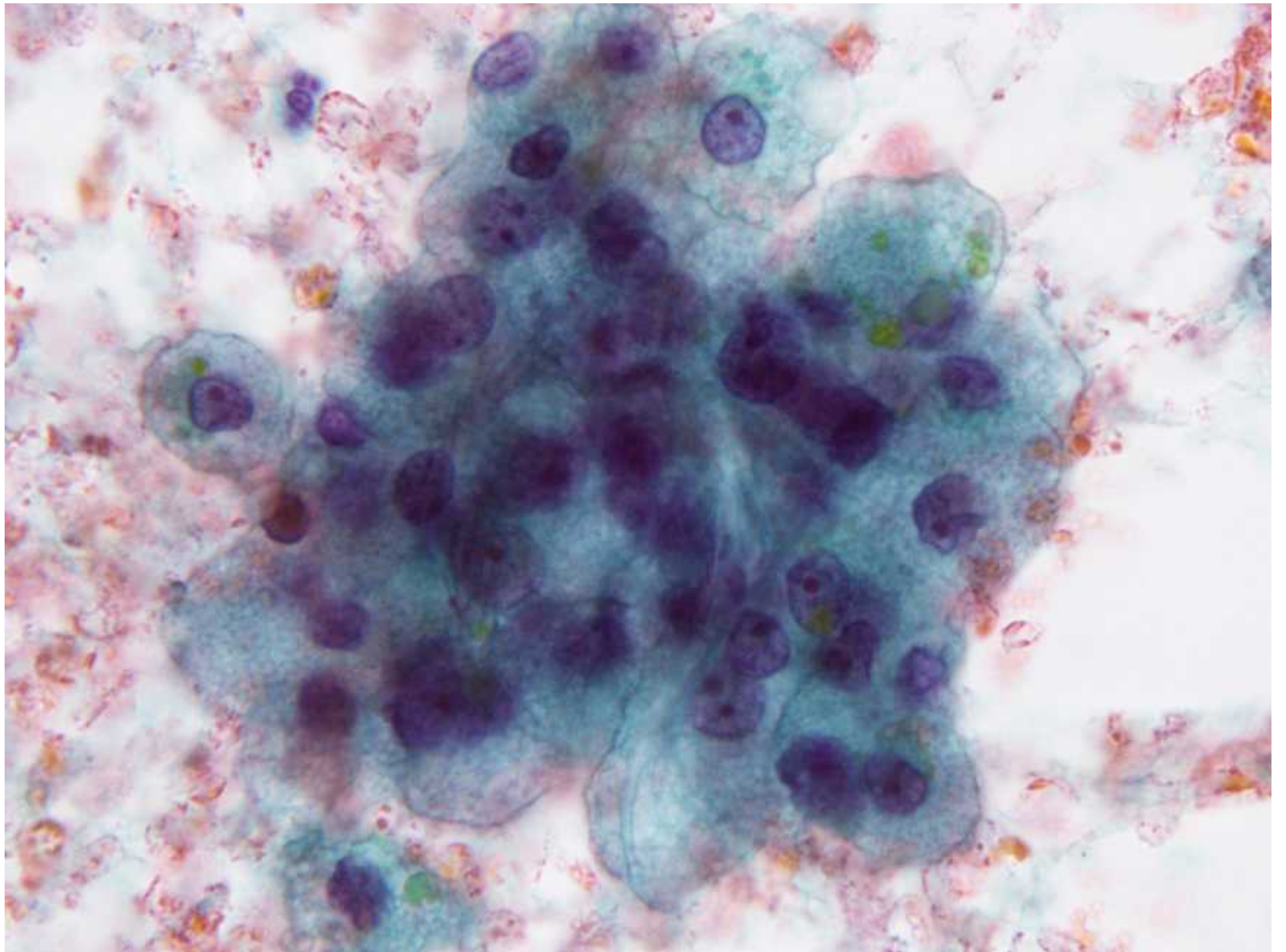
日本臨床細胞学会総会
バーチャルスライドカンファレンス
良性？悪性？ - あなたならどうみる -
鑑別困難症例の細胞診 - Part 2 -

乳腺 症例3
解説

出題者
聖マリアンナ医科大学病院 病院病理部
草苅 宏有







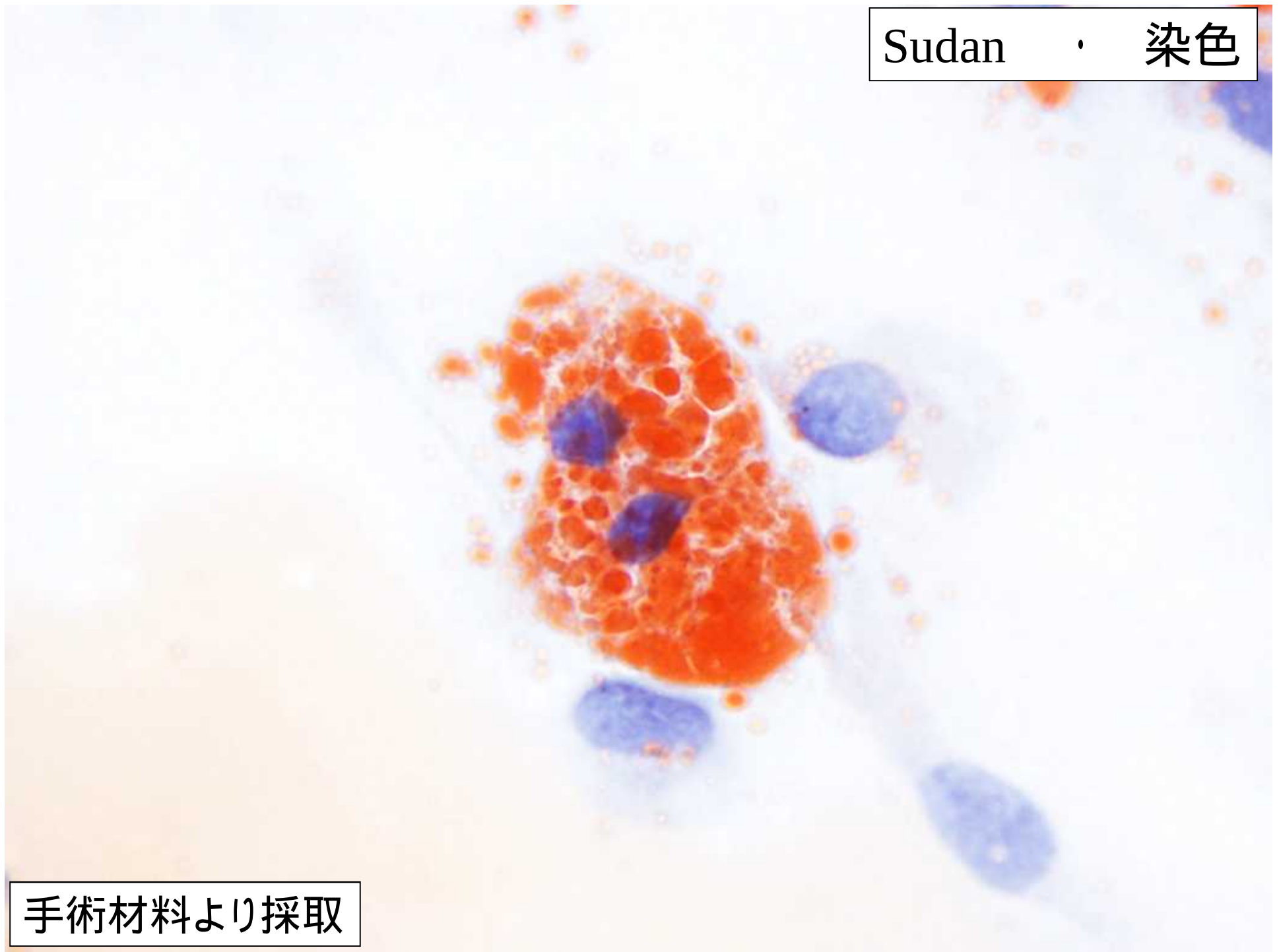
解答

選択肢：5

脂質分泌癌

Lipid-rich carcinoma

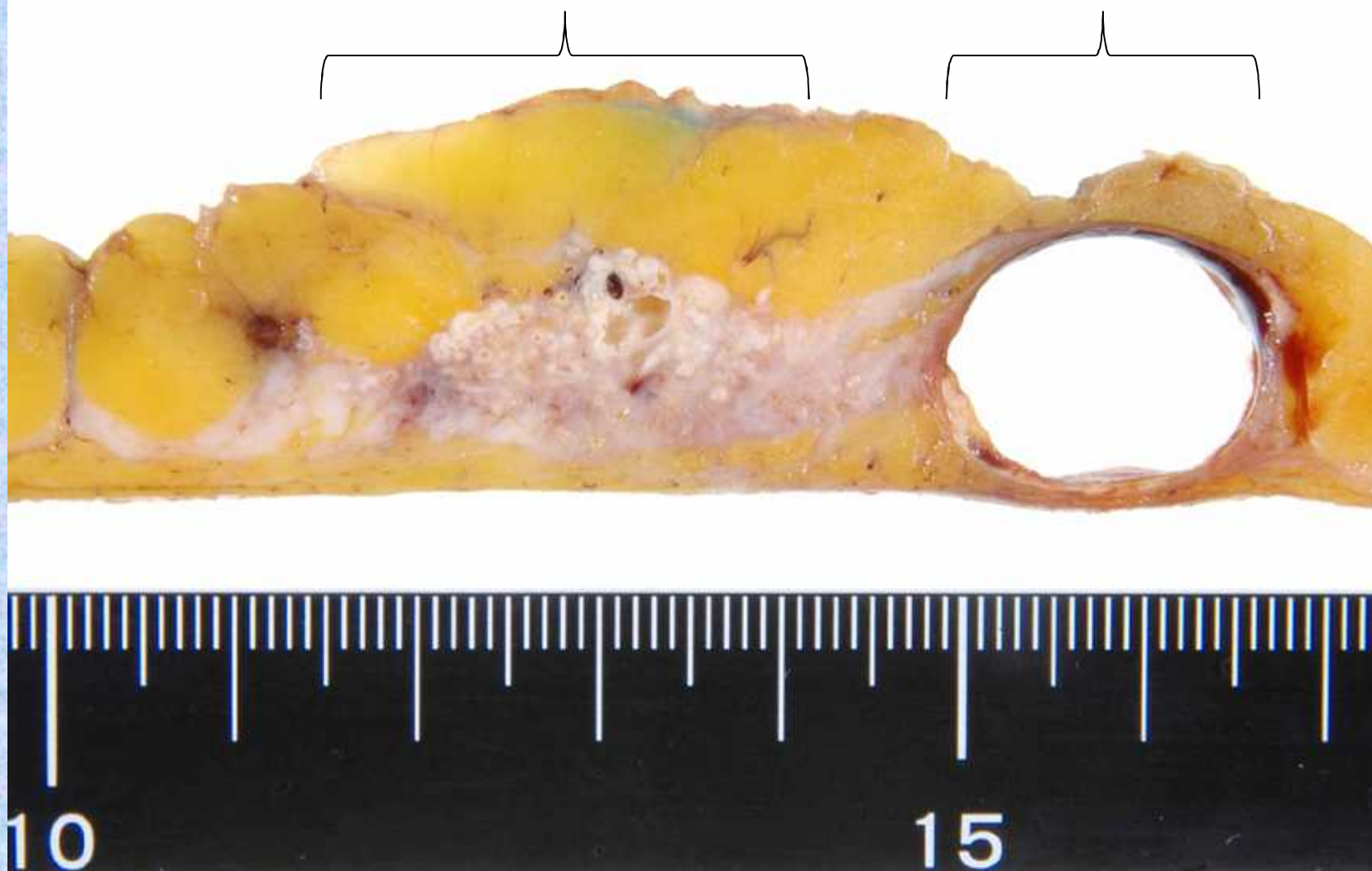
Sudan ・ 染色



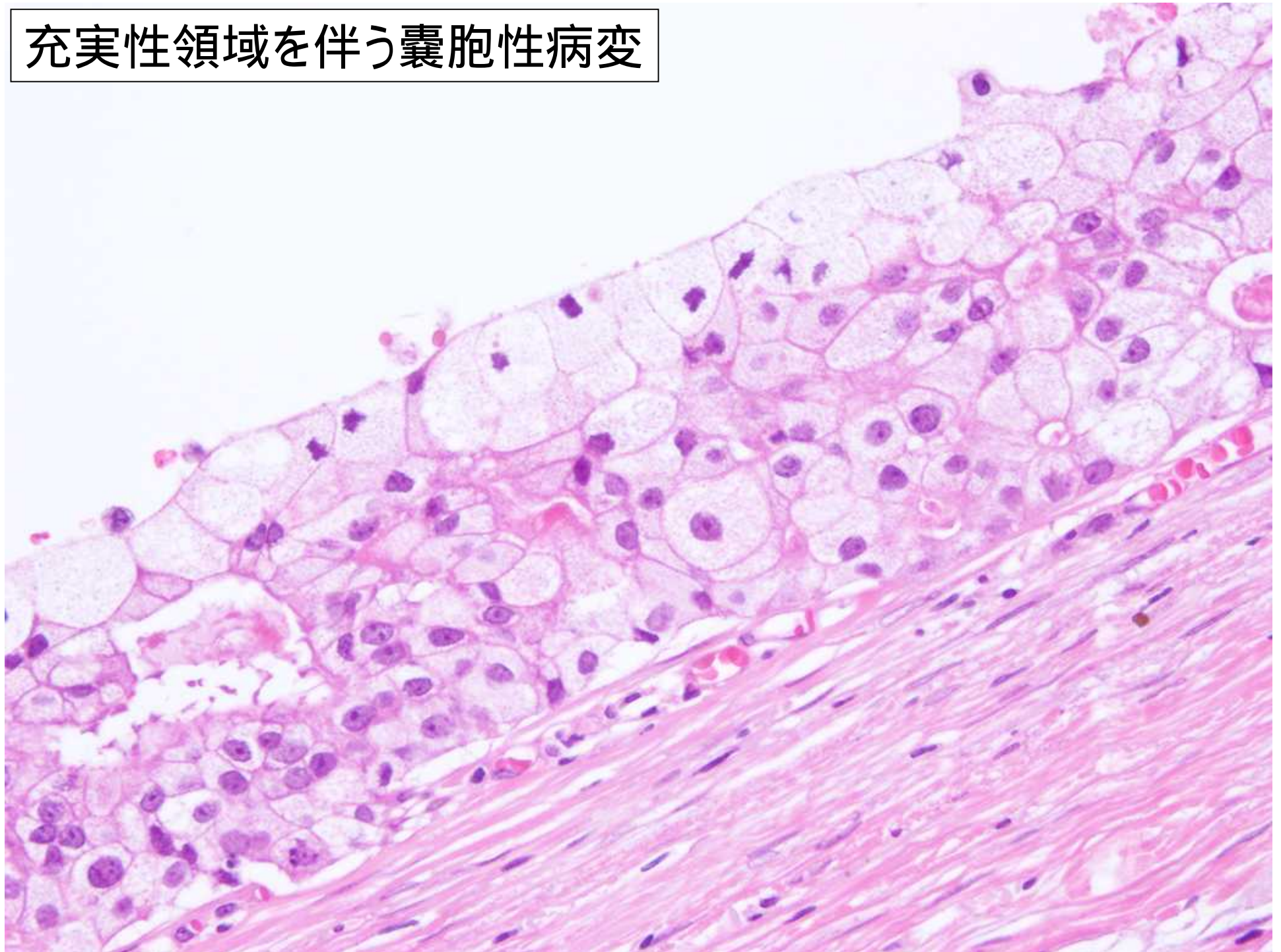
手術材料より採取

境界不明瞭な
低エコー域

充実性領域を伴う
嚢胞性病変

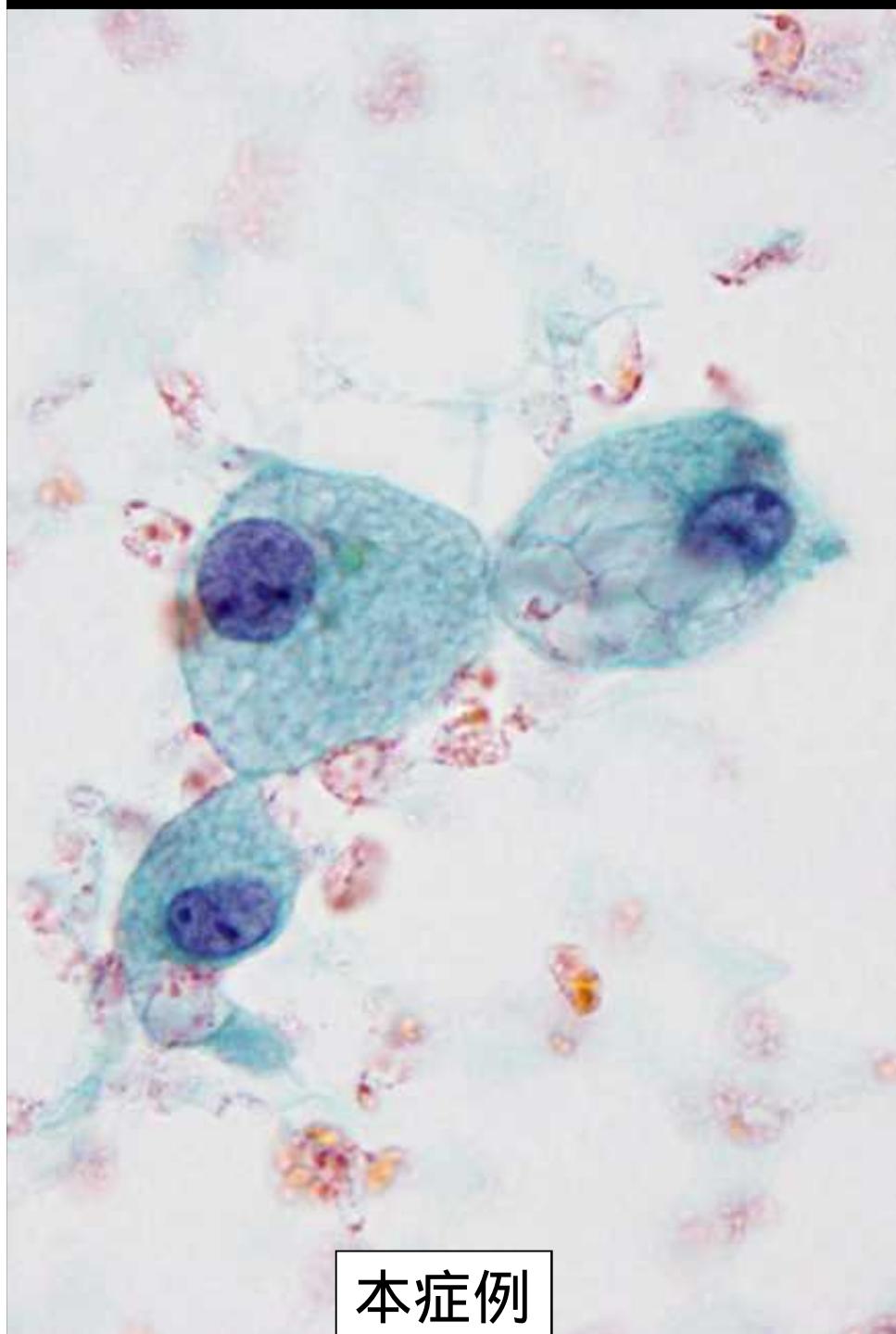


充実性領域を伴う嚢胞性病変

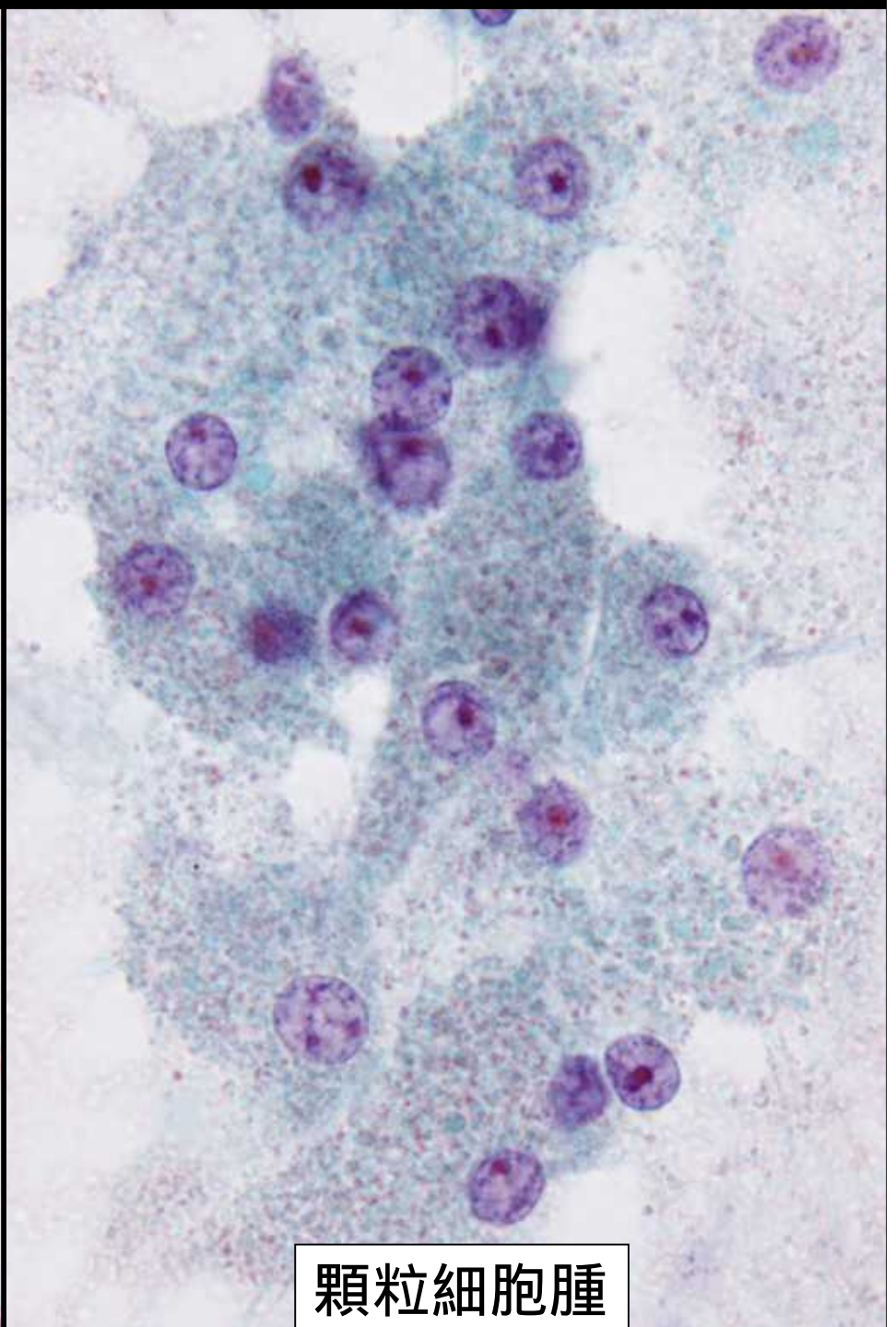


脂質分泌癌について

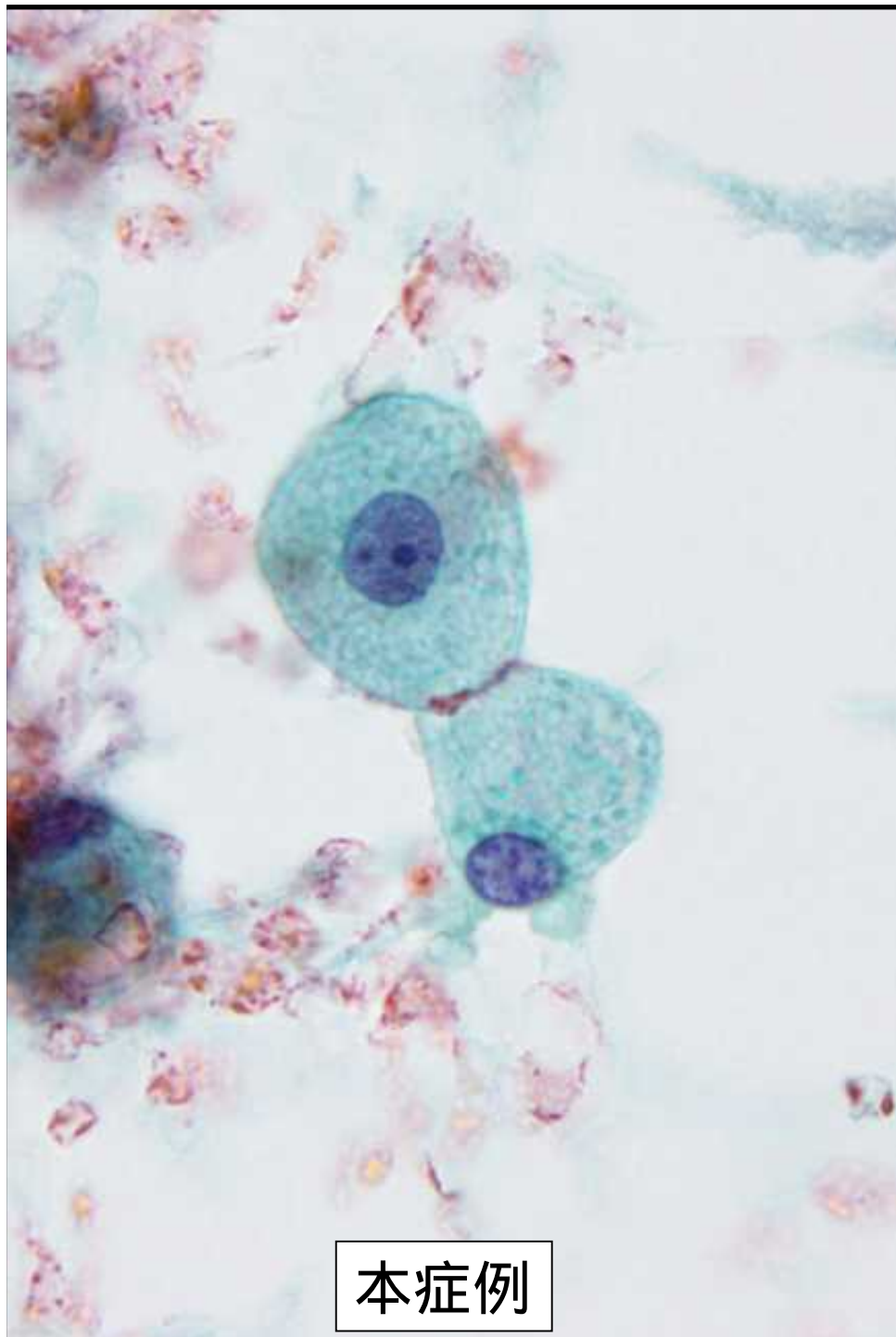
乳腺 lipid-rich carcinomaは、脂質の活発な合成・分泌を認める乳癌として、1963年に Aboumradらによりlipid secreting carcinomaとしてはじめて報告された。その発生頻度は、全乳癌の0.8～1.6%とされ、極めて稀な腫瘍である。



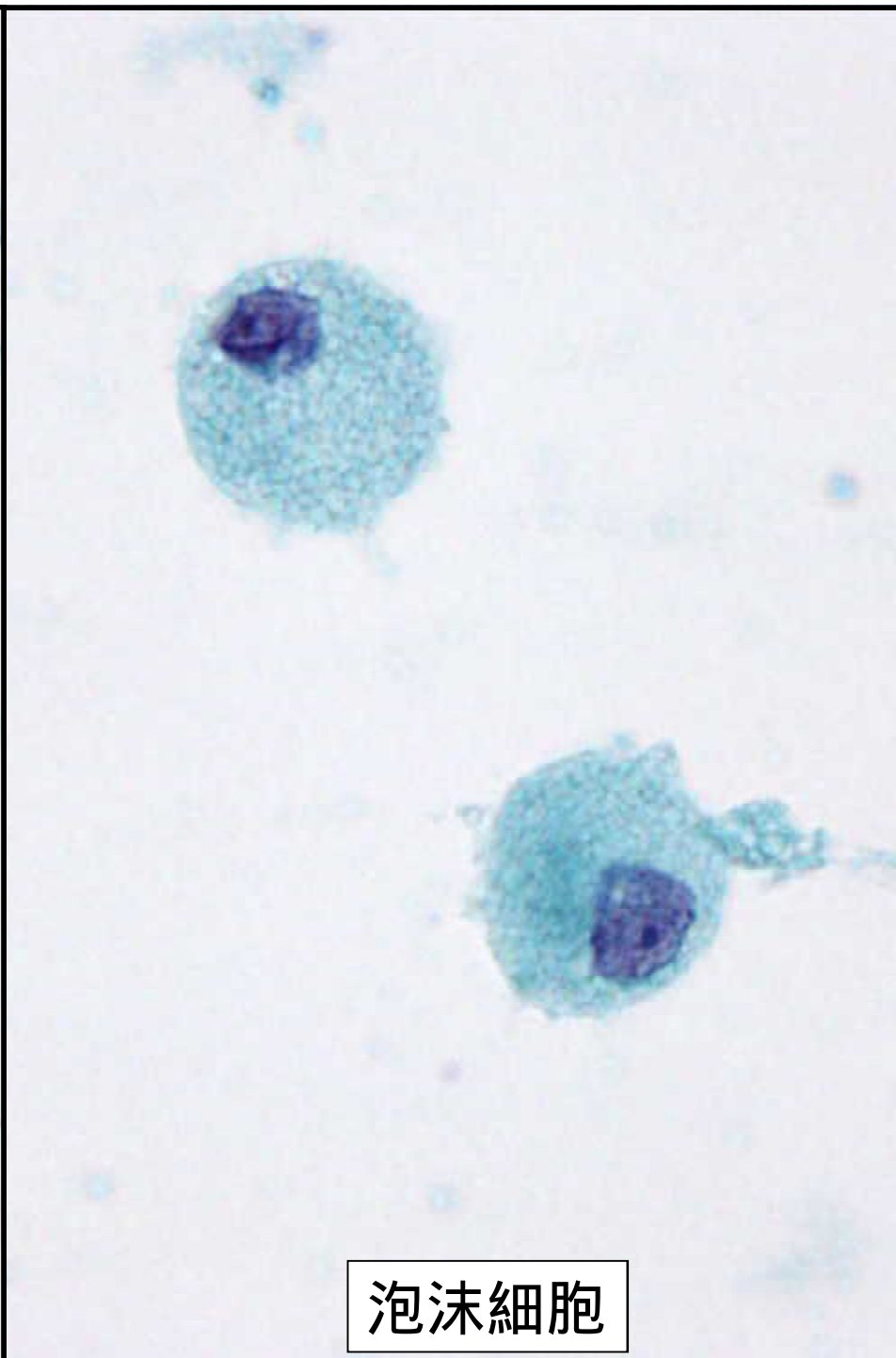
本症例



顆粒細胞腫



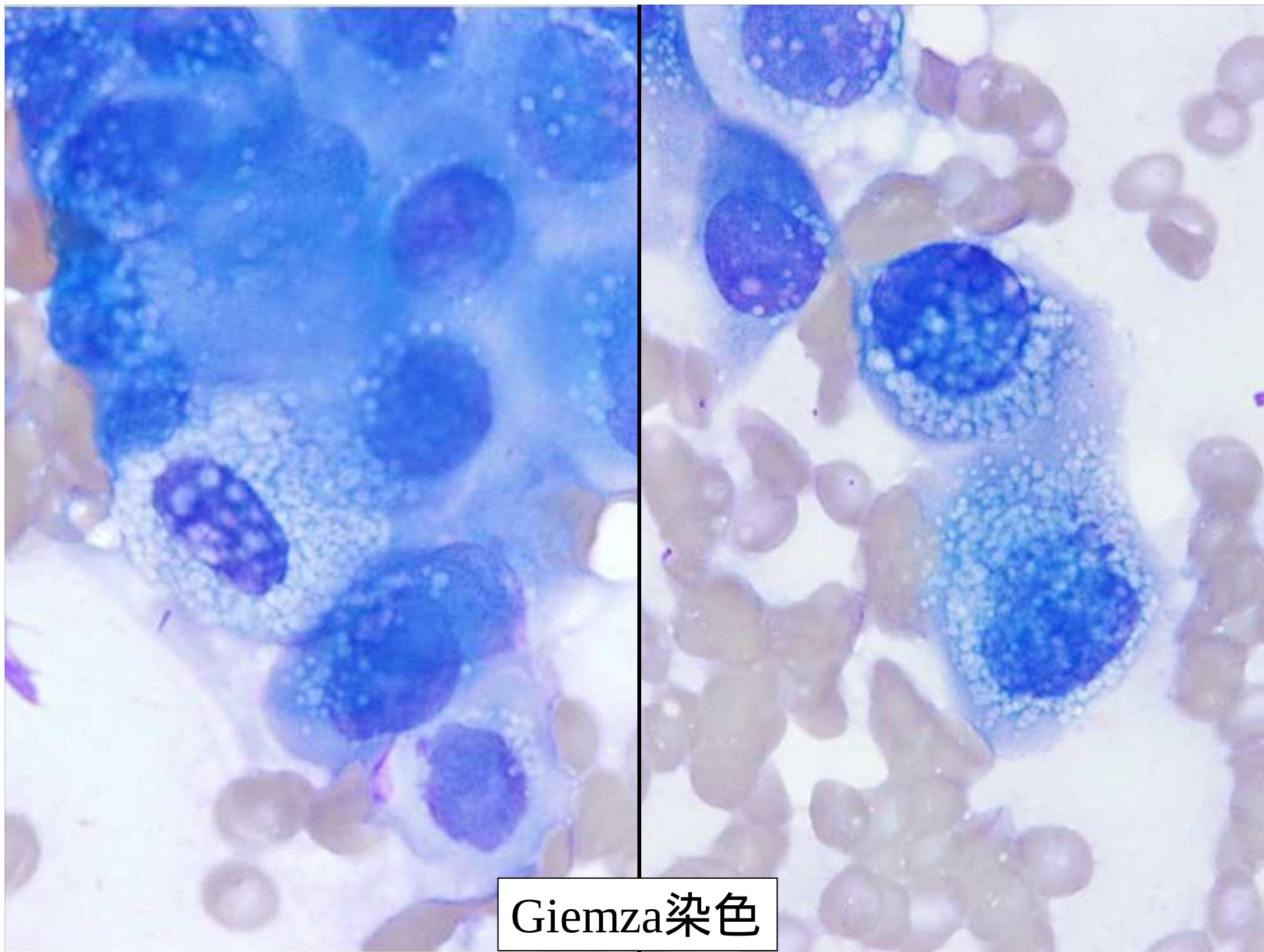
本症例



泡沫細胞

本症例と泡沫細胞の細胞学的比較

	本症例	泡沫細胞
出現形式	散在性～集簇性 集塊の立体感有	散在性～集簇性 集塊の立体感無
細胞質	泡沫状, 空胞状	泡沫状
核	円形～類円形	円形, 馬蹄形, 腎形
核小体	円形明瞭	不整形明瞭
クロマチン	細顆粒状	細顆粒状



Giemza染色

まとめ

- 嚢胞性病変を伴う場合，細胞診によって腫瘍性か反応性の鑑別を求められることがある．
- 本症例において，泡沫細胞との鑑別は極めて困難であるが，核および核小体の形態から鑑別は可能だと思われる．
- 脂肪染色やGiemza染色による脂肪成分の有無，免疫染色による上皮性の確認は診断に有用である．

謝辞

聖マリアンナ医科大学 病理学教室
前田 一郎 先生

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
島田 直樹